

千葉歴史の散歩道

縄目だけではない！千葉の縄文土器



千葉県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 かわべ 川部 しおり 葉里

縄文時代の土器といえば、「縄文」という名前のとおり、縄目の模様が付いているイメージが強い。縄文人は、植物の繊維を撚り合わせて縄を作り、その縄を土器の表面に押し付けたり、転がしたりして模様を付けた。

しかし、各地で「縄目が付いていない縄文土器」も多く出土している。実は、縄目の模様が付いていなくても、縄文時代に作られた土器であれば縄文土器と呼ばれている。

ここでは、千葉県でも多量に出土している「縄」ではなく、「貝殻」を使って模様が付けられた土器を紹介したい（写真1）。今から約8千年前に作られたこの土器は、石^{いし}揚^{あげ}遺跡（柏市）から出土した。土器の表面を拡大して、よく観察してみると、全体にうっすらと横方向の縞模様が見える（写真2）。土器の成形過程で、貝殻の凸凹部分をヘラのように使い、土器の表面をきれいに整えると、このような縞模様が付く。この縞模様は、粘土と貝殻があれば、学校や家庭でも簡単に再現できる（写真3）。実は、考古学者も縄文土器の模様がどのように付けられたのか、写真と同じような実験をくり返し解明してきたのである。

飛ノ台史跡公園博物館（船橋市）では、「貝殻」を使って模様が付けられた縄文土器がたくさん展示されている。筆者も小学生の頃に、社会科の授業でこの博物館を見学し、数千年前の縄文人が自分たちと同じ地域に暮らしていたことを実感し、とてもワクワクした。

また、県内各地にある博物館では、今回紹介したもの以外にも、様々な縄文土器が展示

されている。時期や地域によって、形や模様の違いがあり、見ていても楽しい。もしかすると、「推し」となる土器に出会うこともあるかもしれない。縄文土器を見に、博物館を訪れてみてはいかがだろうか。



写真1 貝殻を使って模様が付けた土器（柏市石揚遺跡出土）



写真2 全体に薄い縞模様が見える（写真1の土器を拡大）

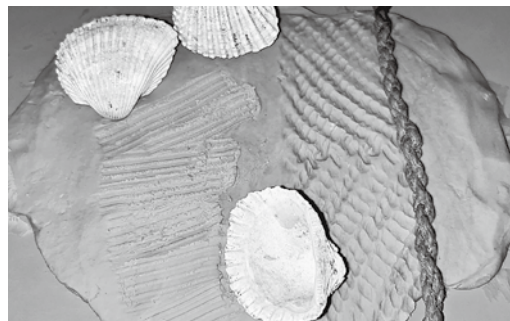


写真3 粘土と貝を使って縞模様が付く工程を再現（右は縄

千葉教育 葉（No. 690）令和7年1月30日発行

編集・発行

千葉県総合教育センター（代表）酒井 誠一

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

TEL 043-276-1204

URL <https://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所

千葉市療育センター いずみの家

〒261-0003 千葉市美浜区高浜3-3-1

TEL 043-216-2465